

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	市民菜園の設置事業（主要事業）							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	産業振興課	係	農務係	評価票作成者	農業政策担当係長 小川泰則
1-3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			③基本施策	農業	コード	3-3-1
					④単位施策(中)	遊休農地の解消	コード	3-3-1-3
	②項	産業振興			⑤単位施策(小)	市民菜園の拡大	コード	3-3-1-3-1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民菜園に関心を持つ市民		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	遊休農地を活用して市民菜園の増設を図ることにより、遊休農地の解消を図る。			
1-5 事務事業の内容	市民菜園に関心のある高齢者を中心に、市民の要望に応え、遊休農地を活用することにより、併せて市内の遊休農地の解消を支援する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	17年度に地主の都合により、1菜園が閉鎖された。18年度に1菜園を開設することができた。	市民の余暇時間の活用の一貫として「野菜作り」を希望する市民が多い。	自分では野菜作りがしたいと望む声が多い。		
平成19年度	「生ごみ堆肥」使用者の増大を図るべく、菜園耕作者の声に耳を傾けるための「アンケート」を実施した。	”	”			
平成20年度	耕作放棄地を中心に、新たな事業地区を探した。	”	”			
平成21年度	従来の利用者の高齢者化が進み、新たに出てくる継続不能者数と新規希望者数との兼ね合いを考え事業地区を探した。	”	”			
平成22年度	従来の利用者の高齢者化が進み、新たに出てくる継続不能者数と新規希望者数との兼ね合いを考え事業地区を探した。					
平成23年度	従来の利用者の高齢者化が進んだが、継続使用不能者数と新規希望者数との比較すると、新規希望者が多く事業地区を探した。					
平成24年度	市街化区域内の菜園は家庭菜園の延長線上と位置付け、面積箇所数とも現状維持程度とし、市街化調整区域内は、NPOが開設する市民農園や農協、平成24年度より提唱する農家開設型の市民農園との競合を避けるため、側面からバックアップすることとし、全体として拡大をしていく方向に修正をした。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	市民菜園の区画数(区画)	180(区画)	200(区画)	市民菜園と同様の菜園を農協が現在251区画実施していることを考慮して、市民菜園の区画数は、市民の要望数を目標として設定した。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)	14(区画)	2(回)	3(回)	2(回)	2(回)	2(回)	2(回)			
直接事業費 b (千円)	496	0	0	0	0	0	0				
人件費 c (千円)	670	667	662	646	627	614	599				
合計コスト d (b+c) (千円)	1,166	667	662	646	627	614	599				
単位コスト d/a (千円)	1区画当たり83	1回当たり 334	1回当たり 221	1回当たり 323	1回当たり 314	1回当たり 307	1回当たり 300	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 活動実績 18年度は整備した区画数 19年度はアンケートの実施（回数）及び内容の検討（回数） 20～24年度は該当地区を現地踏査した回数
人件費は、係担当者の年度内の関わりから、0.1人として算定した。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(区画)	149	149	149	133	133	133	133			
	後期目標値に対する達成度(%)	74.5	74.5	74.5	66.5	66.5	66.5	66.5			

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- ①必要性(必要な事務事業であるか)
 - ②公共性(公が実施する意味があるか)
 - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	今までは、市又は農協しか開設することができなかった。現在は、法改正により市及び農協以外の第3者も開設することができる。	農地所有者及び農地を所有していない者も菜園を開設することができることとなったので、周知を図る。	本事業の基礎となる遊休農地の実態調査を実施した。		
平成19年度	市又は農協しか開設することができなかった「市民農園」が、現在は、法改正により市及び農協以外の第3者も開設することができる。	環境課が進める「生ごみ堆肥」との連携を模索するとともに、市以外にも開設するように周知を図る。	「菜園利用者」から意見聴取を実施したので、次年度へ反映させたい。			
平成20年度	景気後退の中、食の安全性、余暇の使い方の観点から要望が多い。	市民からニーズの多い地区での掘り起こしを行う。	事業化を目指したが実現には至らなかった。			
平成21年度	〃	〃	〃			
平成22年度	景気後退の中、食の安全性、余暇の使い方の観点から要望が多い。					
平成23年度	食の安全性、余暇の使い方の観点から要望が多いが、それぞれの菜園で温度差があり、全体的には増設の方向で行う。					
平成24年度	食の安全性、余暇の使い方の観点から需要は多いが、NPOや農協・農家などとタイアップし、かつ住み分けを考えながら運営したい。年度末にはHPに市内の市民農園・菜園を紹介するコーナーを設けた。また単位施策にもあるように「遊休農地」の解消策としても続けていきたい。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	区画の増加に努め、事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	A	継続して事業を進めること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			